

第3学年4組 道徳科 学習指導案

実施日 令和7年11月21日
指導者 福田 晃平

1 授業の構想

主題名【きまり×自他の幸福】 内容項目【C-10 遵法精神、公徳心】
(教材名「おくれてきた客」 出典 NHK for School「ココロ部！」)

ねらい

法やきまりの意義を理解し、それらを守るとともに、よりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めることができるようになる。

ねらいについて

美術館の閉館時間を過ぎても、おくれてやって来たおばあさんを中に入れてもいいのか、それとも、きまりを守るべきかの話し合いを通して、法やきまりは、自他の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促したい。また、法やきまりの自律的な捉え方ができるようになるということは、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からはうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりの心や他者意識が関わっている。それを気付かせるために、本題材中の、「おくれてきた客」と「警備員のコジマくん」の思いの葛藤場面において、客を入れた方が良いかどうかの発問を通して、社会的なきまりを守ることの意義を理解させながらも、警備員の考えが正しいからといって、「おくれてきた客」の利益や権利を排除したり、無視したりするのではなく、きまりの中で、どのようにして、互いの幸福を守るかという考えに向かわせたい。その上で、自他の幸福のために何が大切か、対話を通して考えを深めさせ、本題材の事例の中にどのように生かせるか考えさせることを通して、公徳心に関わる道徳心を養わせる。遵法精神を支える土台となる公徳心が養われることで、生活の中で自分にできることを考えられるようにさせたい。

ねらいに向かうための手立て

○学習活動1～3の中で、様々な立場の考えがあるということを、教師が価値づけし、様々な視点を持たせた上で、探究型対話モデルを活用させる。対話を通して新たに生まれた考えを持つことで、道徳的価値の本質に迫らせたい。

○導入時に、違反することで法で罰せられるようなきまりについて提示することで、きまりは、「守らなければならないもの」という他律的な意見が多く想定される。展開では、法で罰せられるわけではないきまりを提示することで、きまりを守ることの意義について、より自律的な意見ができるようにさせる。

【自分事として捉えるための手立てについて】

○導入において、本時の学習の、「おくれてきた客」の状況と似た事例を提示することで、「おくれてきた客」の事例だけでは考えを深められない生徒が、別の視点で見ることで、考えやすいようにさせる。身近な場面でも、そのような事例がないか想像させることで、より身近なこととして捉えさせたい。

○生徒が意見を述べる際に、警備員、客、自分、世間、など、どのような立場の人に共感した意見なのか意識させる。その人が置かれている状況や実態に共感させることで、誰かの話ではなく、自分事として捉えさせたい。

○学習活動1～4を通して、本題材の道徳的価値についての考えを深めることで、これから的生活にどのように生かせるか、様々な視点をもとに考えさせる。

子どもの実態

本学級の生徒数は38名である。物事を多面的に考える力に優れた生徒も多数おり、対話において積極的に話すことができる。生徒は、これまで、ルールメイキング活動において、学校のきまりについて見直すために、話し合い活動をしてきており、きまりがある意義やよりよい在り方について考えてきた経験がある。しかし、ルールメイキング活動において、自他の幸福の視点では、どちらかというと、他よりも自分の幸福に偏る生徒もあり、本授業を通して、自分だけでなく、他者のことも考えたよりよい在り方について考えを深めさせたい。

【C 遵法精神 公徳心】

第1学年及び第2学年	約束やきまりを守り、みんなが使う物を大切にすること。
第3学年及び第4学年	約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ること。
第5学年及び第6学年	法やきまりの意義を理解した上で進んでそれらを守り、自他の権利を大切にし、義務を果たすこと。
中学校	法やきまりの意義を理解し、それらを進んで守るとともに、そのよりよい在り方について考え、自他の権利を大切にし、義務を果たして、規律ある安定した社会の実現に努めること。

第1学年

「ごみ箱をもっと増やして」

第2学年

「宝塚方面行き-西宮北口駅」

第3学年

「おくれてきた客」

2 展開

過程	時間	学習活動	○主な発問・指示 ・予想される子どもの反応	○教師の支援 ○評価	備考 ・ICT 機器等
導入	5分	1. ある少女のエピソードで、自分がスタッフだったらどうするか、考えをもつ。	○あなたがスタッフだったら、どうする? ・きまりだから、理解してもらう。 ・もう一度キャラクターを戻させて、少女と会わせる。	・きまりを優先するかどうかという展開2で考えさせる内容に似た事例を提示することで、様々な視点で問題について捉えることができるようさせる。	スクリーン ホワイトボード
	6分	2. 「おくれてきた客」を視聴する。	○「おくれてきた客」を視聴しましょう。	○視聴する中で出てきた、おばあさんにに関する状況など、ホワイトボードにて可視化し、情報整理しやすいようにさせる。 ○映像後半部分は見せず、展開の学習活動3の中で提示する。	スクリーン ホワイトボード
	10分	3. おばあさんを美術館に入れた方がよいかどうか考える。	○おばあさんを美術館に入れた方がいいと思う? それとも入れない方がいいと思う? ・一人くらいならいい。 ・警備員としての責任を果たすべき。 ・他の利用者のことや、美術館の信用のことも考える必要がある。 ・きまりを守る中で、おばあさんの思いも大切にしてあげたい。	○心情メーターを用いて、様々な自分の考えが表現できるようにさせる。 ○どの立場の人を想定した意見か意識させることで、様々な視点を持たせる。 ○おばあさんを入館させる場合に考えられる影響について着目させたり、動画の後半を視聴したりすることで、きまりを守る意義についての理解を深めさせる。 ○きまりは守るべきだが、おばあさんを美術館に入れてあげたいという矛盾に着目させ、入館できないが、おばあさんの思いを無視してもよいか考えさせることで、よりよい在り方に気づかせる。	スクリーン ホワイトボード ワークシート
展開	自他の幸福のためには、何が大切だろうか?				
	24分	4. 自他の幸福のために何が大切か考える。	○自他の幸福のために何が大切だろうか? (中心発問) ・ルールは守った上で、話し合って、代わりの方法を考えようすること。 ・相手の立場や気持ちを尊重する。 ・折り合いをつけられるようにし、自分勝手にならないようにする。 ・話し合いをし、互いが納得することができるようする。	○自分の考えをワークシートに記入した後、探究型対話モデルを用いて、班でファシリテーターを決め、対話させる。モデルのステップ2を意識させる。 ○美術館の事例において、その考えがどう生かせるか当てはめさせることで、本題材の道徳的価値に焦点をあてさせる。 【評価】 ○自他の幸福について、多面的・多角的な視点から考えようとしている。(ワークシート・発言)	スクリーン ホワイトボード ワークシート
終末	5分	7. 「きまり」とどのように向き合っていくか考える。	○あなたは、これから「きまり」とどのように向き合っていきますか? ・きまりを守ることはこれからも大切にする中で、様々な思いや価値観にも目を向け、ただ守るだけでなく、そのきまりがなぜ存在するか考えて行動したい。	○教師の説話を話した後、きまりに関して、対話を通して磨かれた自分の考えをもとに、これから的生活に繋げさせる。	ワークシート